

2021年度「授業技術基礎」における「模擬授業」に関する報告

岩井 晃子*

抄録 教職課程に係る科目「授業技術基礎」は、教育の方法及び技術に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目標としている。本科目を受講した後に、教育実習に臨む学生がほとんどであることから、実践的な学び、とりわけ「模擬授業」を通しての学びを大切にしている。今年度は感染状況を鑑みて4回目まではオンライン授業、5回目以降を対面授業とし、「模擬授業」づくりに取り組んだ。

後期金曜日の3限（受講者44名）に実施した内容について報告する。

キーワード 模擬授業、相互評価、協同学習

1. はじめに

本授業では、教壇に立つための最小限必要な授業技術を身に付けるために、協同学習を取り入れている。

毎回、発問、指名、板書、ノート指導といった授業技術だけではなく、授業で育みたい能力は何か、それをどんな方法で身に付けさせるのかなどをグループで話し合い模擬授業づくりに取り組んでいる。

この授業の目標は、次の2つである。

- ① 授業理論に基づいた学習指導案を書くことができ、学んだ授業技術を用いて模擬授業ができる。
- ② 教員として協働するためのコミュニケーション力を習得する姿勢を身に付けている。

評価は、①試験に代替するレポート（30%）②学習指導案作成（30%）③グループワーク演習点（40%）

2. 授業概要

2.1 授業計画

第1回目から7回目までを授業づくり基礎として、学習指導要領の内容を理解することを目指した。

8回目、9回目で、教諭による授業を児童生徒役として受け、授業づくりのイメージを持った上で10回目からの模擬授業づくりに取り組んだ。

学籍番号順に4,5人ずつ、計9班を作成し、初回から最終回まで同じ班でグループワークを行なった。

模擬授業という協同学習に取り組むためには、最初からスムーズに意志疎通ができる方がよいと考え、学籍番号順に編成することにした。

4回目までは、対面授業ができない状況だったが、

zoomのブレイクアウトでのグループワークと、taniwaプロジェクト機能による文字交流を重ねることで、対面授業が始まった時には、とても活発な話し合い活動が見て取れた。

表 2.1 授業計画

回	日	形態	内 容	
1	9.24	zoom	オリエンテーション	
2	10.1		優れた授業とは① 授業の構成要素を理解する。	
3	10.8	taniwa プロジェクト	優れた授業とは② 授業で育てたい力を理解する。	
4	10.15		授業づくり基礎① 主体的・対話的で深い学びに必要な教師力について理解する。	
5	10.22	対面	授業づくり基礎②学習集団づくり、授業規律について理解する。	
6	10.29	対面	授業づくり基礎③子どもの意欲を引き出す指導と評価について理解する。	
7	11.12	対面	授業づくり基礎④学習指導案の作成の仕方について理解する。	
8	11.19	対面	授業づくり① 算数授業について理解する。	
9	11.26	対面	授業づくり② 道徳授業について理解する。	
10	12.3	対面	模擬授業づくり①	グループごとに学習指導案を作成し、授業研究を行う。
11	12.10	対面	模擬授業づくり②	
12	12.17	対面	模擬授業①	全体で、模擬授業を交流、相互評価し、授業研究を行う。
13	12.24	対面	模擬授業②	
14	1.7	対面	模擬授業③	
15	1.21	オンデマンド	まとめとふりかえり(レポート)	

2.2 グループワークの役割

毎回の班でのグループワークでは、進行役、まとめ役、発表役、タイムキーパー役を交代し、全員が全ての役割を担うように計画した。

各自が毎回自分の役割を意識し、他者の役割を理解することで、合意形成がスムーズに行われることを目指し

*教育学部教育学科

た。

3. 模擬授業について

3.1 日程・役割

第12回から第14回を模擬授業公開回として、以下の表①のように9つの班をA、B、Cに分け、「授業班」「児童生徒役班」「評価役班」をローテーションで担当するようにした。授業班は、15分の模擬授業を行い、児童生徒役班は児童生徒として模擬授業を受け、評価役班は観点別に授業評価を行うとした。

また、表②のように各班で4つの役割を分担した。

表 3.1 ① 模擬授業スケジュール

	授業担当班	児童生徒役班	評価役班
12月17日	A 6班、8班、9班	B 7班、4班、3班	C 5班、1班、2班
12月24日	B 7班、4班、3班	C 5班、1班、2班	A 6班、8班、9班
1月7日	C 5班、1班、2班	A 6班、8班、9班	B 7班、4班、3班

表 3.1 ② 模擬授業役割

役割	内容
授業コンセプト	授業のねらいを説明する
授業者	1人でも複数で行っても良い
板書係	授業者と兼ねても良い
学習指導案係	班としての学習指導案を提出する

3.2 教材選択

どの教科の模擬授業を行うかを班で話し合う際に、昨年は教科を指定したのだが、今年度は、他の授業で学んだ内容を模擬授業として再構築しても良いという条件をつけた。その結果、「道徳」「算数」「外国語活動」「社会」「音楽」の教材が選ばれた。

表 3.2 各班の教材

1班	道徳	くりのみ
2班	道徳	一冊のノート
3班	算数	長さ
4班	外国語活動	What do you want?
5班	社会	聖徳太子
6班	道徳	背中
7班	道徳	うばわれた自由
8班	道徳	カーテンの向こう
9班	音楽	幸せなら〇〇をたたこう!

3.3 相互評価

評価役の評価の観点は、①教師としてふさわしい誠実さで授業に臨んでいるか。②わかりやすい説明、指示、受けとめだったか。③ねらいに迫る授業だったか。④発問は多面的・多角的に考えを深めるものだったか。⑤グループとして協働がなされていたか。一項目4点計20点満点とした。また、児童生徒役の評価の観点は、①先生役の説明はわかりやすかったか。②先生役は、自分たちのがんばりを認めてくれたか。③続きを受けたい授業だったか。一項目4点計12点満点とした。

授業班となる日以外には他班の授業を評価することで、児童生徒役の学生を観察する姿が見られた。

また、児童生徒の評価観点に「先生は自分たちのがんばりを認めてくれたか」という項目を入れることで、児童の主体的な活動を取り入れる授業が多く見られた。

写真 3.3① 評価役による観察



写真 3.3② 話し合い活動



4. まとめ

授業のふりかえりアンケートとして次の項目を4段階で評価した。

①模擬授業に取り組んだことを今後活かすことはできるか。②他のチームの模擬授業から学んだことはあるか。③チームの全員が協働できたか。④チームの中で自分の役割を果たしたか。

その結果、「とても」と答えた割合は①86%②90%③74%④61%だった。

ふりかえり記述では「中学校の教員を目指しているが、小学校教員を目指している人と一緒に小学校の授業づくりに取り組んでとても学べた。」「様々な教科の模擬授業から学べて良かった。」という感想が多く、他校種、他教科からの学びが学生の意欲につながったことが伺えた。

次年度も様々な教科の模擬授業づくりにチャレンジできるように計画すると共に、自分の役割意識や協働意識を高めるように工夫を重ねたい。

(2022年3月2日 受理)